

令和元年度 第2回 八千代市学校適正配置検討委員会

日時 令和2年1月24日 17時30分から19時10分
場所 八千代市教育委員会大会議室
議題 (1) 八千代市内小学校・中学校の適正規模に係る現状の確認
(2) 八千代市としての小中一貫校の推進について

公開又は
非公開の別 公開

出席者 <以下敬称略>
大山 光晴, 八巻 憲一, 稲毛 英三, 坂井 誠一, 丸田 峰登, 米石 達也,
安原 幸雄, 齋藤 勝廣, 高橋 健二, 中台 巍, 崎村 知生, 鈴木 介人,
佐藤 玲子

事務局 学務課長 長島秀一, 学務課主幹 兒玉健司, 学務課主査 丹治貴史,
学務課主査補 村瀬正, 学務課主任主事 笹田 裕介

委員長 皆様本日は、御苦勞様です。前回の審議会から大雨や台風など、自然災害の印象しか残っていないのですが、この冬もいつもの冬とは違うと感じながら過ごしております。本日は、「第2回八千代市学校適正配置検討委員会」ですが、委員の皆様のお力添えをいただきながら、充実した審議会にしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
それでは、会議次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。まずはじめに、「八千代市内の適正規模に係る現状の確認」となっております。前回の審議会の御意見をもとにということになると思います。まず、はじめに「高津・みどりが丘地域」につきまして、事務局からの説明をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

事務局 前回の審議会におきまして、委員の皆様の中から人口が増えている地域の中学校をどうするのかということについても、審議した方がよいのではないかと御指摘をいただいておりますので、今回はじめに御審議いただければと思います。
資料3ページを御覧ください。ここに、現在人口が増えている地域である「高津・緑が丘地域における児童数について」の推計を提示いたしました。前回は各地区ごとに推計を提示いたしました。今回は現状をより正確に把握するために、推計の出し方を変えて提示いたしました。前回は、住民票上の1年生から6年生までの子どもの数から令和元年度実際にその学校に在籍している子どもの数を進学率として求め、令和2年度から令和7年度までにその進学率を当てはめました。今回は、平成26年度から平成30年度までに、実際に高津中学校へ進学した子どもの数から進学率をもとめ、その5年間の平均値を進学率としました。前回は高津中学校への進学率は85%だったのに対して、今回の進学率は73%となっております。それを、今の6年生から1年生までと住民票上の5歳児から0歳児までに当てはめて計算しました。結果を見てみると、令和12年度までの増減率が約111%となっております。

それを、高津中学校の学区の学校ごとにグラフにしたものが、左下のグラフになっております。みどりが丘小学校の児童数が顕著に伸びているのがわかりますが、他の3つの小学校は、減少傾向になっておりますので、相対的に高津中学校への入学予定者の伸びは増減率で約111%にとどまっております。

右下のグラフは高津中学校への入学予定者のグラフです。先ほど説明いたしました理由から大きな増加とはなっておりません。最後に付け加えといたしまして、これはあくまでも住民票上反映されている数でありまして、今後開発される予定等の数は反映されておりません。現在のところ八千代緑ヶ丘駅前にある総戸数1006戸の大型集合住宅につきましては、437戸に加えまして、359戸の入居、販売が行われております。さらに、

今後210戸の販売も予定されております。しかし、子どもの増減につきましては、増減の規模や時期も含めまして予想が困難です。ですから、今後も関係部局とは連携を密にして、対応していく必要があります。令和元年5月1日現在、高津中学校の余裕教室数は4教室あるとの報告を受けております。事務局からは以上です。

委員長 ありがとうございます。今回は実数、それから今後の開発予定にも触れながら説明をしてもらいましたが、皆様から御質問等はございますか。

委員 今回のことで、固有名詞を出させていただきますと「住友不動産」の集合住宅のことだと思うのですが、同会社がまた別の場所を購入したとして、既存の建物の解体が始まっております。おそらく集合住宅が建つのではないかと懸念の声があがっております。

また、緑が丘西1丁目のゴルフ練習場の土地が、今後の鍵をにぎってくるのではないかと考えられておりますので、その点を配慮していかなければ後で大変なことになるのではないかと思います。市としては、そのゴルフ練習場の持ち主の方に土地の運用を現在、どう考えているのか伺いを立てているのでしょうか。それらのことについて、お答えいただきたい。

委員長 いかがでしょうか。集合住宅につきまして、住民の方からも教育委員会に情報等があがっていると思いますが、市として何か情報はもっていますか。

事務局 今、委員から御指摘いただいたことにつきましては、同様の把握はしておりますが、あくまでも予定ということで伺っております。ですから、今後、集合住宅が建設される可能性もあると考えられることから、市の関係部局とも連携しながら対応してまいりたいと考えております。

委員 確か緑が丘西地区における市の想定人口が、1万4千人だったと記憶しております。地区の現状の人口が7,000人となっております。このまま行くと、人口が倍になることが予想されておりますが、そのことについてはどう考えていますか。

事務局 先ほども御説明したのですが、現状として把握している数字をもとに検討させていただいておりますので、今後、そういった人口増が見込まれることが分かりましたら、「通学区域審議会」や関係部局とも連携をしながら対応してまいりたいと考えております。

委員長 市の方といたしましても、具体的な数字がないと検討が難しい状況もあると思いますので、念を押させていただきますと、関係部局と連携をしていってほしいと思います。後で、慌てて対応するということが、一番子どもたちに影響があると考えられますので、どうぞよろしくお願いいたします。その他、御質問はございますか。

委員 1点だけ懸念していることは、今、住宅を造成している緑が丘西地区につきまして、1万4千人の人口を増やすということで、空き地もまだまだたくさんあります。そこで一つ聞きたいのですが、基本的には高津中学校に進学する生徒が多いとは思いますが、学区の関係で睦中学校への影響はあるのかどうか伺いたいです。

委員長 私もバスに乗っていると住宅が開発されている様子がわかります。そこに異動されてきた子どもたちが、どのような学区になるのかということについて検討しているのかということでしょうか。

委員 学区について、現在は検討しているのかしていないのか。将来的には検討の余地があるのかといったことについて伺いたい。

事務局 それでは、「通学区域審議会」の担当がおりますので、その担当から答えさせていただきます。

きます。

事務局

「通学区域審議会」の担当です。今、御質問がありました緑が丘西地区におきましては、緑が丘西1丁目から5丁目6番地までが、高津中学校が指定となっております。そして、緑が丘西5丁目7番地から緑が丘西8丁目までが陸中学校が指定となっております。これは、平成26年4月1日よりそのようになっております。当初この地区は、大和田新田と吉橋という住所によって中学校区を分けておりましたが、この区画整理事業に合わせて、平成24年度、平成25年度の「通学区域審議会」におきまして、決めております。しかしながら、決めた時点では、まだ緑が丘西地区の開発につきましては、十分ではなく、陸中学校への通学路等も整備されていなかったことから、本年度までに希望すれば、みどりが丘小学校区内にお住まいの方であれば高津中学校も選べるという形をとっております。現在、「通学区域審議会」におきまして、審議延長ということで次年度御入学される予定のお子様につきましても、高津中学校を選べるということになっております。今後も人口の動向を見ながら、どのようにしていくのかということにつきまして、審議している最中でございます。ですから、御質問にあった、緑が丘西地区のみどりが丘小学校より主に北側の緑が丘西5丁目7番地から8丁目までの地域につきましては、陸中学校が指定となっておりますし、そこから陸中学校に通学しているお子様もおります。以上です。

委員長

これから柔軟に検討していくということによろしいでしょうか。他に何か御質問はありますか。

委員

一つ疑問なことがあります。緑が丘西地区には、新設で中学校ができるのかできないのか伺いたい。といいますのも、私は、朝登校指導員をやっております。そこで、話をする保護者の方から市は、新設中学校を作る予定はあるのかないのかと尋ねられることがあります。どちらなのでしょう。そのあたりがはっきりしておりません。

委員長

先ほどの事務局からの説明ですと、現状の学校の中で何とか子どもたちを配置することができるのではないかとということかと思えます。ただ、今後の開発の状況は注視していかなければならないということです。

委員

わかりました。現在のところは、その予定はないということになりますね。

事務局

今、委員長からも話がありました。今後の5年間は、住民票の中では今ある高津中学校と陸中学校でやっていこうということになっております。ただし、繰り返し申し上げますが、今後の開発状況をみながら、市としても関係部局と連携しながら考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長

それでは、本日2番目の議題に移りたいと思います。2番目の議題は「八千代市としての小中一貫教育の推進」についてということで、非常に重要な議題となっております。まずは、事務局から御説明をお願いします。

事務局

続きまして、八千代市としての「小中一貫教育の方針」につきまして御検討いただきたいということで、今回は、小中一貫教育についての共通理解を図らせていただきました。今回、こちらの「参考例」として流山市のものを提示させていただいておりますが、赤枠で囲んだ部分、小中一貫教育を進めるための視点につきまして、この後、委員の皆様には意見をいただきたいと思っております。先のお話にはなりますが、この視点が明確になりましたら、来年度は、その視点にそって具体的にどのようなことを行うのが効果的なのかということをお話し合ってください、まとめたものを教育長に報告したいと考えております。今回はこの視点の部分になります。次年度はその下のこの部分になります。視点の数は特に限定しておりませんので、話し合いの中で、御検討いただければと思います。

委員の皆様の御意見をいただく上で、まずはじめに、八千代の教育について説明させていただきます。前回の審議会におきまして資料としては配布させていただいております。まず、一番上に八千代教育の大きな目標が設定されており、その重点目標が赤枠で囲んであります。その目標達成のために、基本方針が示され、具体的な取組として4つのプロジェクトが現在進められております。その4つのプロジェクトは7つの施策に分けられ、それぞれで具体的な取組が行われております。その取組の説明は、前回配布いたしました「第2期八千代市教育振興基本計画」でございますので、御参照ください。

とりわけ、これから御検討いただく八千代市としての小中一貫教育につきましても、この目標に向かって行われるものと御理解いただければと思います。では、重点目標につきまして、補足をさせていただきます。目標は2つ示されておりますが、二つ目の「教育を核とした持続可能な地域社会の構築」につきまして説明いたします。昨今、核家族が増え、隣の住人が誰かもわからないで暮らしている人さえいる人間関係が希薄な社会（地域）になりつつあります。他にも災害や福祉、環境など身の回りには解決すべき課題が多くあります。そこで、これまでは、社会（地域）に学校は支えられてきましたが、これからは、学校も地域を支え、互いに補完していく必要があると考えられます。

そこで、その担い手となるのが、子どもたちです。例えば、これまでは、先生に指示されたからとただごみを拾っていた子どもたちですが、実はそのごみを拾うことは、自分たちの生活に密接につながっていて、拾って終わりではなく、実はその行動は、環境改善の一步につながっていることを理解したとします。するとごみを拾う取組だけで終わらず、持続可能な社会に向けて必要な価値観や能力、態度など、子どもたちに変容をもたらします。このように、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を行うことが重要だと考えております。そのための学習や教育活動のことを「ESD」といいます。ですから、八千代教育の重点目標とESDは密接な関係にあるといえます。

次に、本日、別添資料として配布させていただきました資料を御覧ください。「SDGsって何だろう？」という資料です。これは、中身を見ていただけるとわかると思いますが、2015年に国連総会で採択され2030年までの達成を目指している世界の約束です。全部で17の目標がありまして、どれも今後の地球を持続可能なものにするために必要なことです。今、世界中で取り組まれているものであり、最近では、新聞やテレビでも目にすることが多くなりました。そのSDGsの達成の鍵はESDだとも言われております。特に目標4：教育はユネスコが実施にあたって中心的な役割を担っております。八千代市でもESDの推進拠点としてユネスコスクールへの加盟を進めているところです。

このあとは、グループに分かれていただき、まずは、委員の皆様が考える八千代市としての小中一貫教育に必要な視点を思いつくままに付箋に書いていただきます。その後は、グループの中で、その付箋を仲間分けするなどして、意見交換をしていただきたいと思います。各グループの校長先生方には、司会進行と意見の集約を依頼してありますので、これから20分間をめどに話し合いを行ってください。その後、各グループからまとめた意見を発表していただきたいと思います。なお、各グループには記録役として、事務局から職員が1名つくことを御了承ください。よろしく願いいたします。

(グループ討議)

【1グループ 要点筆記】

- ・「子どもの育成」という視点。
- ・「地域コミュニティ」の要素。
- ・地域の声をうまく反映させること。
- ・学校、地域それぞれの視点。
- ・子どもの安全第一。
- ・地域の核としての学校整備。

【2グループ 要点筆記】

- ・9年間をとおした学力や資質能力の伸長。

- ・中1ギャップの緩和。
- ・地域と学校の協働
- ・環境と防災（SDG s の視点）。
- ・国際理解，外国語教育。
- ・これまでの小中の良さを生かす。
- ・小中学校のチームでの教育活動。
- ・異学年での日常的な交流。
- ・統合について，地域の特性を生かす。
- ・持続可能な取組。

【3グループ 要点筆記】

- ・地域に根ざした学校。
- ・9年間をみとおした教育活動。
- ・小中教員の協働。
- ・教職員の負担。
- ・競争心，子どもたちの刺激の仕合。
- ・あいさつ，掃除などの基本的な生活習慣。
- ・子どもの適応性。
- ・小中一貫教育の在り方についての不安。

委員長 各グループでまとめ役になっている方，各グループでの御議論の様子につきまして順番に発表していただければと思います。

グループ1 色々な御意見が出ました。このような学校を作りたいというものや学校の先生であればこのようなことができそうだという御意見まで，幅広く意見交換できました。その中でも，小中の先生方が交流できる良さについては議論されました。他に，このグループには地域の代表者の方が多くいらっしゃるので，学校というのは地域ではこのような位置づけになるということの意見交換が行われました。

また，私は教育課程等の話をさせていただいたのですが，地域では，率直にどのような子どもたちに育てるのかという視点が重要であるとの御意見が聞かれました。他に，小中一貫教育をとった際の課題もいくつか聞かれました。例えば，人間関係がうまくいかなかったときは，9年間はつらいのではないか。中高の一貫はどうなのか。年度途中での転校はどうするのかなどこれらの点につきましては，今後検討していかなければならないと感じました。最後ですが，小中一貫教育の中での子どもの安全ということについて話ができました。

委員長 では，第2グループお願いいたします。

グループ2 小中一貫教育を進めるにあたって，共通して考える事項が必要なのではないかということになりました。つまり，全市的に進むべき方向性ということですが，細かいこと等は地域ごとに魅力ある取組を行っていったほうがよいということになりました。せっかく小中一貫教育を行うなら何か魅力ある取組にしなければ成功はしないだろうという意見が出ました。しかし，無理はしない，持続可能な取組にする必要があるのではないかということになりました。他に，小中一貫教育を行う中学校区の大きさによっても地域とのかかわり方は変わるだろうとのことから，環境やESD等の視点を持って取り組むことで地域との関わりを深めていけるようなことも考えられるということになりました。さらに，制服の在り方，小中教員の交換授業等これまでのやり方とは大きく変えて取り組むことができるようなシステムの構築をする必要があるのではないかとの意見がありました。以上のことから「学力」「持続可能な取組」「地域」3つの視点をまとめました。以上です。

委員長 それでは、第3グループお願いいたします。

グループ3 たくさん貴重な御意見をいただきました。小中一貫教育で大切な視点は何だろうということになりまして、まずは「確かな学力」ではないかということになりました。では、その学力を上げるにはどうしたらよいかという視点で話し合いを行いました。子どもたちに刺激を与える教育つまり、競争心ということになりました。子ども同士が切磋琢磨する環境が学力向上につながるのではないかということになりました。その競争心をあおる中で、テストの持ち方につきましても検討する必要があるだろうとの視点も出てまいりました。また、陸地域で行っている国際交流の話が出てまいりまして、海外交流することで、英語に興味が出てきて、学習しようとする意欲につながり結果として学力向上になるということでした。これを小中一貫教育で行うことにも大きな意味があると考えられます。次に、「豊かな心」ということが出てまいりました。中学生が小学生のお手本となるような子どもを育てなければならないだろうということになりました。その中でもやはり、挨拶は大事だろうということになりました。頼もしい子ども達ということで考えると地域に愛される子どもたちということが挙げられます。では、地域に愛されるにはどうしたらよいかということを考えますと挨拶ということになるのではないかと考えられます。これは、中学校だけで行うのではなく、小学校から中学校まで小中一貫教育の中で行うのがよいのではないかという御意見が出てまいりました。

委員長 3つのグループそれぞれに御議論いただきありがとうございました。伺っていて重なっているところも多々あると感じました。最後のグループの「学力」、「国際教育」、「豊かな心」とありましたが、「学力」につきましては、最初のグループあるいは、2番目のグループでは具体的に5年生までと6年生と中学1年をつなげて2年にして、中学2年と中学3年をつなげて2年にして、学年の区切りを5-2-2として、これまでの6-3とは違うやり方ができないものかという議論がなされていました。また、もう少し具体的な御意見として、小学校でも教科担任制を取り入れてはどうかという議論もあつたかと思えます。次に「豊かな心」という点につきましては、1グループで懸念として出ていました単学級で9年は厳しいだろうということにつきましては、そのとおりだと思います。学力だけではなく、心の面で9年間この学校に通学してよかったと思えるような学校というのも大切ではないでしょうか。そして、忘れてはならないのは、「国際教育」はもちろんのこと、八千代の教育目標には「持続可能な地域社会」というものがございますが、その学校の地域社会が持続可能という由伝統を生かしながら、自分も一緒に成長していくという視点も議論されておりました。なお、ここで私がまとめるわけにはいきませんので、今のは概況でございます。様々な御意見もいただきましたし、このように書いていただいたことはとてもよいのではないのでしょうか。そして、これから決めていただきたいのは、前向きな話でございまして、懸念材料を踏まえつつ、小中一貫校を今後八千代でつくっていくとする中で、どのような視点でつくっていくとするのがこれから大事になってくると思えます。そこで、これまでの市の動向も踏まえまして、視点として、さらには市の施策となるように事務局に整理していただきまして、八千代市の小中一貫教育はこのような視点で取り組んではどうかというものを、もう一度委員の皆様に見ていただけるようにしていただけますでしょうか。

事務局 承知いたしました。

委員長 それでは、本日は長々とお時間をいただきまして、ありがとうございます。以上で議事の2につきましましては、終了といたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、事務局は次をお願いいたします。

事務局 では、その他といたしまして、「通学区域審議会」担当より近況の報告をさせていただきます。

事務局

現在、「通学区域審議会」では、緑が丘地区の小中学校区の変更につきまして審議を重ねております。具体的には令和3年4月より通学区域を変更する予定でございます。具体的には、現在、線路で学区を分けておりますが、「緑が丘1丁目」や駅前のマンション等を新木戸小学校の学区に変更する予定です。実際、新1年生や在校生でも希望があれば、在住している方は、新木戸小学校に異動することになっております。しかし、両校ともだいたい学級数が増えることが予想されておりますので、本日も御意見がありました中学校区につきましても、審議を重ねているところでございます。次回の審議会では、次年度に向けて答申を作っていくための経過措置等を審議する予定でございます。また、中学校区につきましても継続的に審議していく予定です。以上です。

委員長

ありがとうございました。それではその他の2番目といたしまして、今後の予定ということで事務局お願いいたします。

事務局

それでは事務局より次年度の予定につきまして、簡単に連絡いたします。次年度は、本日皆様に御審議いただいたものを、事務局でまとめさせていただきます。整理して提示できるものを用意させていただきます。それをもとに、次年度第1回の審議会では、具体的にどのようなことができるのかということの議論をさらに深めていきたいと思っております。第2回目では、御審議いただいたことをもとに、「視点」、「具体的な手立て」を委員の皆様にお示しして、御審議いただき、最終的に教育長に報告させていただきたいと思っております。なお、この御審議いただいたことが、そのまま八千代市の小中一貫教育の基本方針となるのではございません。あくまでも「適正配置検討委員会」として、御意見がまとまったということになります。そして、2年の任期が終了することになります。なお、引き続きご尽力いただくこともあるかとは思いますが、よろしくお願いいたします。以上です。

委員長

皆様本日は、大変お疲れさまでした。色々な御意見を出していただき、ありがとうございました。また、来年度もより具体的な形になるように、皆様の力を合わせたいと思いますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。